

市長あいさつ



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



中津川市は、緑豊かな山々と清らかな川に抱かれた風光明媚なまちです。また、豊かな自然は多様な生態系を育てており、ギフチョウやハナノキなど世界的にも希少な生きものが見られます。

私達は、先人達によって守り受け継がれたこの多様で豊かな自然環境を貴重な財産として次世代に良好な状態で継承していかなければならない責務があります。そして、私達が健康で安心して生活を送るためには、豊かな自然と、そこに生息するすべての生物とともに暮らすことのできる、自然と共生したまちづくりが求められています。そこで、平成 28 年には第三次中津川市環境基本計画を策定し、「自然共生・循環・低炭素型の魅力あふれるまち中津川」を将来の環境像と定め、その実現に向けて市民・事業者・行政が協力して「ふるさと中津川」の環境保全に取り組んでいます。

この間、世界では 2030 年に国連の持続可能な開発目標（SDGs）が打ち出されるとともに地球温暖化対策のため 2015 年に合意されたパリ協定での長期目標の達成に向け、各国での温室効果ガス実質排出量ゼロを目指す動きが加速してきました。一方で、世界的に新型コロナウイルスの感染拡大により、社会の在り方が大きく変化する中で、今後新たに発生する課題に対して環境行政も柔軟に対応していく必要があります。

こうした国内外での動向や計画前期の実績を踏まえ、また、令和 9 年予定のリニア中央新幹線の開業も見据え、中津川市においても持続可能な社会を目指して、様々な分野の課題を総合的に解決していく必要があることから、この度本計画の中間見直しを行いました。今後、第三次中津川市環境基本計画（中間見直し版）に基づき、地域の資源を活かしながら、市民、事業者、行政が力を合わせ新たな課題に対応し、地球規模の視点で地域から課題の解決に努めてまいります。

最後に、この基本計画の策定にあたり、ご尽力いただきました皆さまをはじめ、アンケートやパブリックコメントを通じてご意見をいただきました方々に心から感謝申し上げますとともに、今後とも計画の実現に向けて市民の皆さまにご支援とご協力をお願い申し上げます。

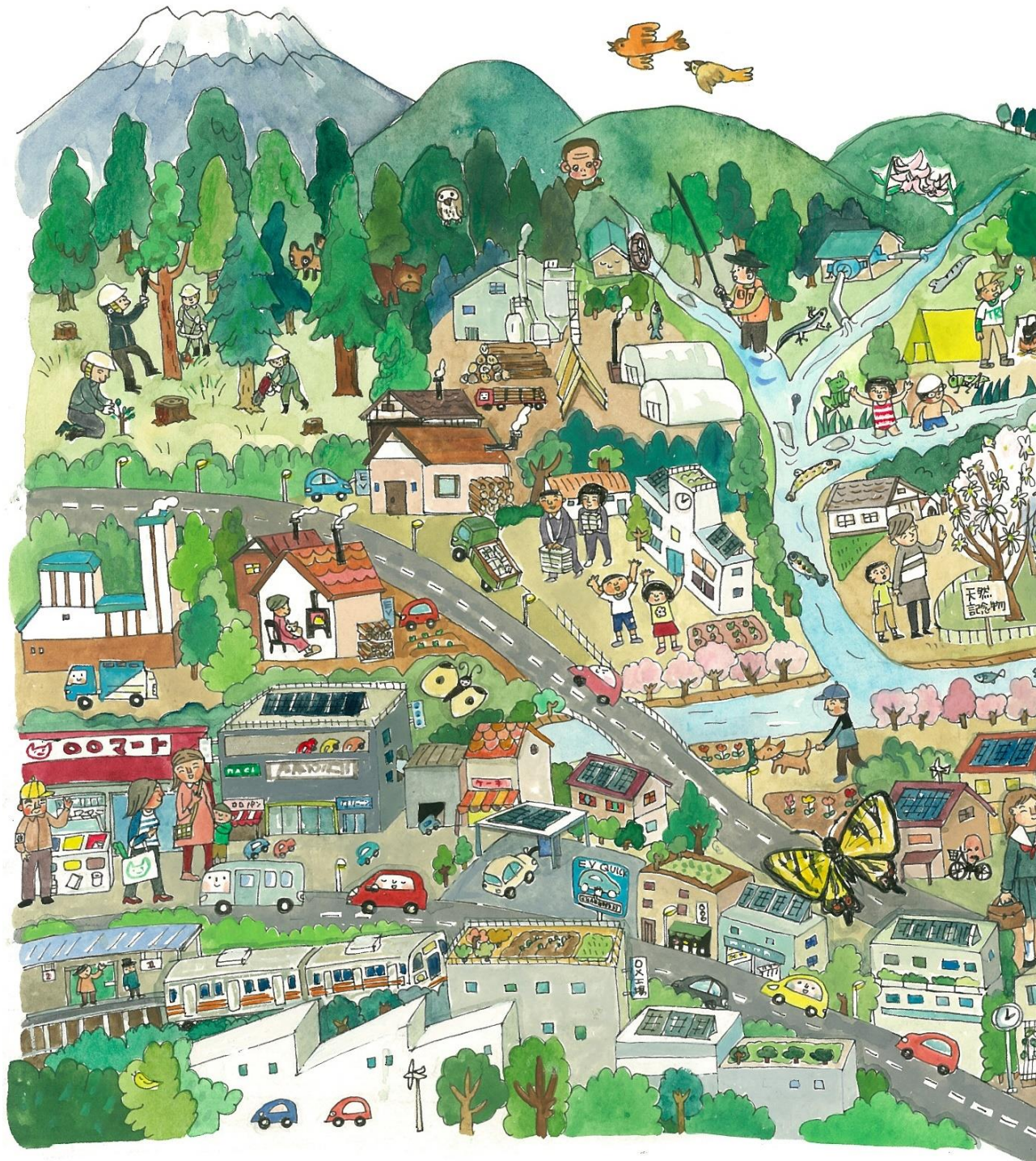
令和 3 年 3 月

中津川市長 青山 節見

あらまし

中津川市の将来の環境像

自然共生・循環・低炭素型の魅力あふれるまち中津川



本計画は、自然共生、循環、低炭素、安全・安心、人づくりの5本の柱を基本方針にして将来の環境像を実現します。

自然共生 自然と人間のかかわりの中で豊かな自然環境を保全し、その恵みを適切に活用します。

循環 家庭や事業活動から排出される廃棄物等を減らし、できるかぎり再資源化します。

低炭素 自然エネルギーの導入などにより、二酸化炭素の排出を削減します。

安全・安心 生活環境を守り、快適で安全に安心して住み続けられる地域づくりを進めます。

人づくり 多様な主体、幅広い世代が連携・協力し、将来の環境を守る人材を育てます。



(1) 自然共生地域づくり

本市は、周囲を木曽山脈、三河高原に囲まれ、面積の約 8 割を森林が占める緑豊かなまちであり、豊富な水量を持つ多くの河川が木曽川へ流れ込む清流のまちでもあります。また、市内のどこかな里山風景にはシデコブシやハナノキなどこの地域に分布が限定される植物が生育する学術的に貴重な生態系を有するまちでもあります。これらの清らかな空気や水、緑豊かな自然環境は、先人から受け継がれてきた大切な財産であり、私たちに自然の恵みである水や食料を提供するだけでなく、四季それぞれの美しさや安らぎなどかけがえのない恵みを与えてきました。

しかし近年、開発に伴う森林や動植物の生息生育地の減少、外来生物の進入等による生態系への悪影響、担い手の高齢化など人の手が入らないことによる森林や里地里山の荒廃や放棄など、豊かな自然環境が失われ、生物多様性が低下しようとしています。この流れをくい止め、よりよいかたちで自然環境や生物多様性を次世代に引き継ぐことは、私たちの使命です。

本市では、これらの自然が着実に保全、継承されるよう市民や事業者が継続的に環境保全活動に関わるための仕組みづくりを整備します。さらに、シデコブシなど貴重な植物や在来の動植物に悪影響を与える外来生物の分布調査などを継続的に実施し、動植物の生息生育地の保全活動や外来生物の駆除活動、荒廃する森林や里地里山の再生活動を推進します。本市の素晴らしい自然の魅力を広く PR し、観光資源として活用し、地域の活性化を図り、自然と共生し発展する地域づくりを進めていきます。



(2) 循環型地域づくり

資源は無限ではありません。これまでの大量生産・大量消費・大量処分・使い捨ての時代の結果として、地球温暖化や資源の枯渇、廃棄物の最終処分場の不足など数々の弊害が生み出されてきました。

必要以上にもものを買わない、使わない、捨てない（リデュース：reduce）を徹底したうえで、一度作られたものは大切に使い、再利用（リユース：reuse）し、形や用途を変えて再生利用（リサイクル：recycle）することによって、持続可能な社会を次世代につなげていく「循環型地域づくり」を進めていく必要があります（以上の3つのRをまとめて「3R（スリーアール）」といいます）。

また、生活から排出される廃棄物の適正処理・処分も地域の大きな課題です。市内の家庭や事業活動から排出される廃棄物を出来る限り削減し、環境への負荷と廃棄物の処理処分に必要となるコストを抑えていくことが将来に向けて求められています。そのためにごみの減量化と資源を有効活用していく取組を進めます。

資源の有効活用の点からは、3Rの推進とともに森林資源の豊富で良質な中津川市の木材を活用した住宅や家具、木工品などの生産や利用に更に取り組む、地域経済の活性化や適切な間伐による健全な森林の維持を行う循環的な取組を進めます。



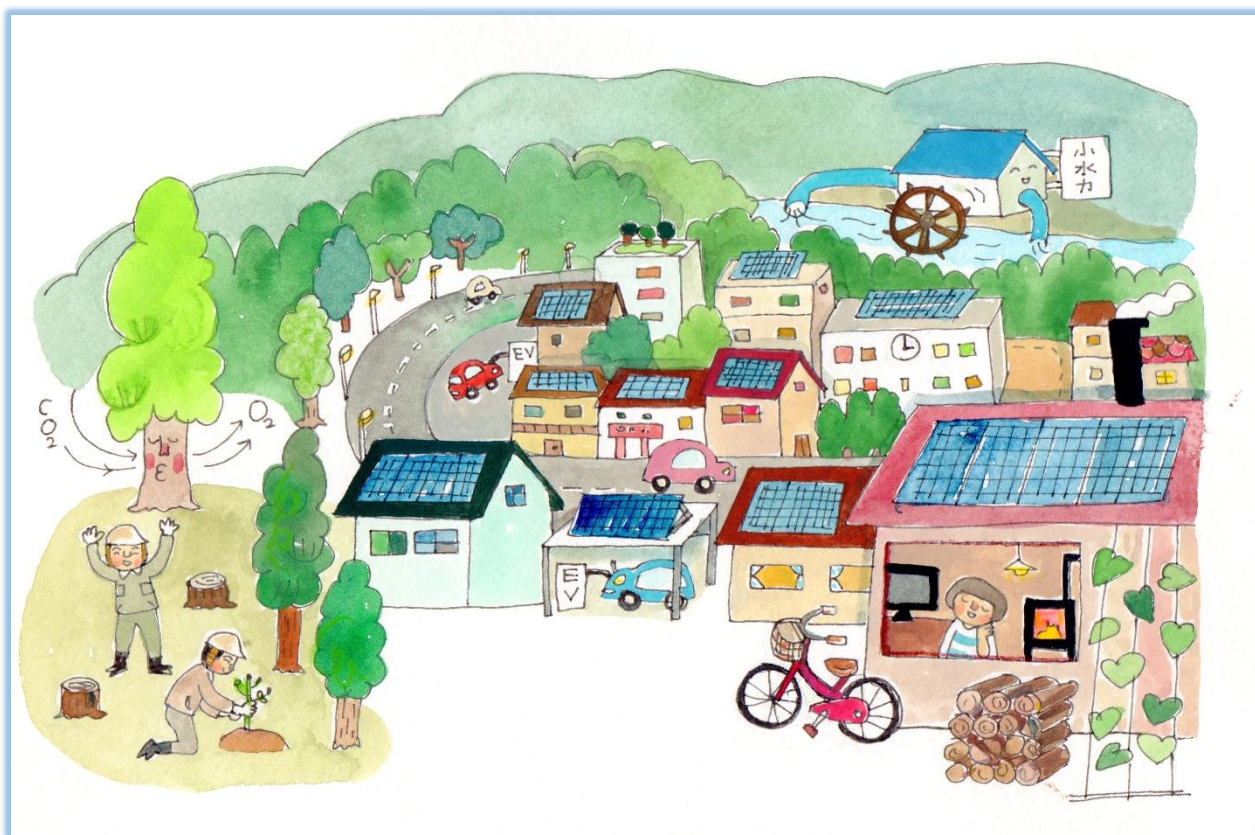
(3) 低炭素地域づくり

近年、世界各地で異常気象が多発し深刻な干ばつや水不足などの自然災害が起き、人間や動物の生存が危ぶまれています。その原因は私たち人間による二酸化炭素などの温室効果ガスの大量排出や森林伐採等により、地球の大気バランスが崩れ、気温が上昇している「地球温暖化」が関係していると考えられ、世界全体で温室効果ガス削減に向け対策に動き出しているところです。

本市においても、地球温暖化の解決に向けて二酸化炭素の排出量の少ない「低炭素地域づくり」を進め、世界規模の環境対策に積極的に寄与していかなければなりません。

そのためには、私たち一人ひとりが生活・事業活動から発生する二酸化炭素の排出量に意識を持ち、省エネルギーの取組やエネルギーの効率的な利用促進を図り、環境にやさしいライフスタイルへの転換を進めていくことが必要です。

また、太陽光や水、そして豊富な森林資源など本市の豊かな自然の恵みや地域特性を生かした自然エネルギーの導入を促進させ二酸化炭素の削減を進めるとともに、こうした自然エネルギーを地域防災や産業にも活用し、地域の活性化につなげる取組を進めます。



(4) 安全安心な環境づくり

誰もが長く住み続けたいと思う地域づくりのためには、公害などにより健康をおびやかされる心配のない安全な環境、快適できれいで安心して暮らせる環境づくりを推進する必要があります。

高度経済成長期には日本各地で甚大な公害被害が発生し、人々の健康や生活環境、生態系に大きな影響を与えました。その後、市民や行政、産業界が一体となり公害対策や環境対策の法整備が進められ、現在では克服・改善されてきました。一方で、私たちの身の周りには社会経済活動の進展とまちの都市型化、そして生活スタイルの多様化から自動車の排ガスによる大気汚染や騒音、生活雑排水等による河川の汚濁、廃棄物の不法投棄など様々な環境問題が発生しています。

また、平成23年3月11日に発生した東日本大震災とこれに伴う原子力発電所の事故により、改めて安全安心な生活環境の重要性に感心が高まっています。

本市では、生活の基本となる健康で安心な環境づくりに向けて、生活環境に影響する大気や水質、騒音・振動、悪臭など公害の要因となる項目の監視や指導を継続するとともに快適で安心な環境づくりに向けて、不法投棄の監視やまちの美化、市民のマナー向上のための取組など地域のきずなを大切にしたい環境づくりを推進します。



(5) 環境保全に向けた人づくり

経済の発展や私たちの生活スタイルの変化にともない、身近な自然の荒廃や生態系への悪影響、資源の大量消費による環境負荷の増大、そして地球規模での温暖化の問題など環境に関する課題は多様化、複雑化してきています。

将来に向けて自然共生・循環・低炭素型の地域づくりを進めるためには、私たち一人ひとりが意識を変え、身近なところから行動していくことが必要です。

また、環境に関する課題を解決する能力や主体的に環境問題に取り組む人材を育てるため、家庭、幼保園、学校、地域、事業者等の様々な場における環境教育等の展開も不可欠です。

本市ではこれまでも、市内の豊かな水資源や森林資源を活用した環境教育等に力を入れてきましたが、今後さらに、環境に関する情報発信や市民、事業者、行政等の多様な主体、あらゆる年齢階層が連携・協力し、様々な場や機会を通じた環境教育等の推進が図られるよう取組を充実していきます。

さらに、これらの地域づくりの推進の核となるコーディネーター等の人材育成と活用、その仕組みづくりを通じて、各主体間や地域間の継続的で密接な連携促進を進めます。

将来に豊かで美しく魅力ある中津川市の環境をしっかりとつないでいくため、環境保全のための力と未来を創る力を市全体で育み、その力を十分に活かした地域づくりを進めていきます。

